

2019.12.22

地域ボランティアプログラム「松木日向緑地プログラム」メンバー

発行・問い合わせ

首都大学東京ボランティアセンター 東京都八王子市南大沢1-1 Call:042-677-1354

E-mail:tmu-volunteer@jmj.tmu.ac.jp

Twitter:@tmu_volunteer #松木目向緑地

Facebookもあります!

松木日向緑地プログラムとは?

首都大学東京南大沢キャンパスの奥地にある松木日向緑地 で毎年、夏頃から2月にかけて、学生主体で竹林整備の活動を 行っています。また、伐採した竹を水鉄砲等に利活用すること で地域交流の促進を行っています。これらの活動は右記の社 会課題解決を目的とし、月に1・2回ほど行っています。

ボランティアプログラムには、ボランティアの意義や社会課題・ 背景等を学ぶ事前学習、1年間の活動を多角的に振り返る事 後学習があります。しっかりとした目的意識をもち年間の活動 に臨むことで、活動と学習が深く結びつく構造になっています。

社会課題

・環境: 里山荒廃による生態系への悪影響

・文化:自然を利用する、という文化及びそ

こで扱われる技術の伝承が絶たれる ・地域:少子高齢化現象の進行に伴う世代

間交流・地域コミュニティの希薄化 ・大学:豊かな緑地資源に対する学内での

認知度の低さ



~プログラムメンバーからの音~

Q.プログラムに参加した理由は?

- ・友人に誘われたのがきっかけで、この活動を何となく始めました。(都市教養学部 都市教養学科 理工学系 物理学コース・3年)
- ・自然が好きなのと多世代の方と長く関係をもって交流できる点に魅力を感じました。(都市教養学部 都市教養学科 生命科学コース・3年) ・学科で自然環境の利用と保全について学んでいて、ボランティアとしての保全活動の勉強になると思い参加しました。(都市環境学部 観光科学科・2年)
- ・なんかボランティアを始めたいなと思った時に、**大学内でできるのが魅力的**で参加しました。(都市教養学部 都市教養学科 法学系・3年)

Q.プログラム活動のおすすめポイントは?

- ・竹を切り倒したり、地元の子ども達と自然の中で遊んだり、年配の方と竹炭を使ってBBQをしたり、**学校ではできないことが体験できて学びも多い点**。 (都市教養学部 都市教養学科 生命科学コース・3年)
- 事前学習でボランティアの意義や社会背景を学んだ後、活動に取り組むので明確な目的意識をもって活動に取り組むことができます。また、事後学習という 振り返りの場があるので**自分の成長、そして活動の社会的効果を再確認出来て**、意義深い時間だと感じます。(都市教養学部 都市教養学科 法学系・4年)
- ・大学内の活動なので**気軽に参加でき**、活動を続けていくことで**関わる人が増えていくこと**が良い点だと思っています。(都市環境学部 観光科学科・2年)
- · いろんな学部·学年の首都大生同士で活動をするので、毎回、新しい刺激があります。 (都市教養学部 都市教養学科 法学系・4年)
- ・自然を通じ子ども達や保護者の方々と交流するので、自分にはない新たな視点や考え方が得られます。
- (システムデザイン研究科 電子情報システム工学域・修士1年) ・竹を切るだけでなく**地域の方とコミュニケーションをとり、社会課題をより身近に考えることができます**。(都市教養 学部都市教養学科 法学系・3年)

Q.プログラムによってどんな学びを得たり変化感じたりしましたか?

- ・地域の課題を考えるうちに**地域福祉**に興味をもつようになりました。(人文社会学部 人間社会学科 社会福祉学教室・2年) ・自分が初めて、緑地に入った頃よりも、**少しずつ緑地が変化していく**ことで、この活動が自分にとっても地域にとっても意味のあることなのだと実感して います。(都市環境学部 観光科学科・2年)
- ・進路面で視野が広まりました。地域の課題に触れ続けたことで、それを解決するための仕事に就きたい!というモチベーションになりました。 (都市教養学部 都市教養学科 法学系・4年)
- ・自然の利活用の方法や地域の方々との交流に必要なことが何かを知ることができました。(システムデザイン研究科 電子情報システム工学域 修士1年)

松木日向緑地プログラム



道

0)

IJ

はじまりは...

松木日向緑地の課題緑地の荒廃

大学周辺地域の課題 多世代交流の減少 多世代交流の 場所として 緑地を利用しよう!

涯

動

普段は竹林の間伐作業を行いつつ 「サル山水合戦」や「体験会」など 地域交流できるイベントを企画します。





環境保全

竹林の整備によって以前より陽の光が入るようになり ました。また伐採した竹を資源として利活用しました。



大学生が繋ぎ役となり子どもから大人まで幅広い世 代での交流ができました。



これからも松木日向緑地を利用した 豊かなコミュニティの形成を目指します



プログラム外の学生 も参加できます! プログラムメンバーでーから 企画・運営しました!

春

たけのこ掘り(プレ企画)



サル山水合戦(自主企画)

8/31.9/7



↑3日間で約200人が参加しました

4月6・14・20日の3日間、松木日向緑地でたけのこ掘りが行われました。地域の小学生やその保護者の方々等が多く参加し、私達、大学生は参加者のたけのこ掘のサポートを行いました。今年は筍は不作、とのことでしたが、子どもがこういう経験をできるのは嬉しいという保護者の声を聞いたり、小さなたけのこでも喜ぶ小学生を見たりして、今回のイベントが大人にとっても子どもにとっても良い機会であることを感じました!またそうしたことから参加者にとって、松木日向緑地が地域の中で身近な場所になっているのだな、思いました。

(都市環境学部観光科学科・2年) (人文社会学部人間社会学科社会福祉学教室・2年)



↑愛宕・上柚木・南大沢小学校の小学生、保護者の方々が参戦しました

事前に準備した竹を活用して**竹水鉄砲**を作り、その後全部で5 チームに別れて総当たりの**水合戦**を行いました。この企画は 地域交流の促進や子どもたちへの自然文化・伝統的技術の継 承を目的としています。開始前の竹水鉄砲作りでは作り方を 子ども達にも分かるような説明をするのに苦労しましたが、 子ども達は和気あいあいと水鉄砲を作っていて、また水合戦 では保護者の方々と共に楽しそうに走り回っていたので、自 身も楽しい時間を過ごすことができました。地域の方々と交流を通じ、今までの自分にない視点や考え方を得ることがで きたので、自身の視野を広げるきっかけになりました。

(システムデザイン研究科電子情報システム工学域・修士1年)

秋

竹林整備

10/5



↑写真の道具によってきれいに4つに竹を割ることができます

理学部生命科学科の加藤先生に、放置された竹林やその管理方法についてご説明していただきました。放置された竹林は足の踏み場もなく、整備にあたってはよく周囲を見て考えながら行う必要があると感じました。その後、竹を伐採し、その竹を竹炭に加工するために四つ割にしました。伐採をすることで暗い竹林に光が差し込み、活動に対する、やりがいを感じました。自分で切り出した竹が竹炭として活用され循環していくのはとても嬉しいです。

(人文社会学部 人間社会学科 社会福祉学教室・2年)

冬

木工体験

11/30



↑クリスマス用に、緑地で採れた木の実や蔓を使いリースを作っています

子どもと一緒に、竹炭を作りつつ芋を焼き、竹の伐採、 リースなどの工作を行い、お昼には焼き芋と緑地でとれた キノコ入りの豚汁を食べました!大学の自然の中で、普段 関わることのない地域の方々との多世代の交流ができたり、 子どもの笑顔をたくさん見られたり、自分も夢中になって 工作をしたり、と、とても楽しい活動でした!交流を通し て新しいことを学び、松木日向緑地の良さを広められたこ とが嬉しいです!

(都市教養学部 都市教養学科生 命化学コース・3年)



国集後記

緑地の活動紹介はいかがでしたか?このポランティアプログラムは毎年5月頃から募集を開始しています!説明会も併せて行われているので気になった方はそちらにもご参加下さいm(____)m 再び緑地でお会いしましょう! 法学系・4年・N

统地重

2019.12.22

執筆•編集 地域ボランティアプログラム「松木日向緑地プログラム」メンバー

発行・問い合わせ

首都大学東京ボランティアセンター東京都八王子市南大沢1-1

Call:042-677-1354 E-mail:tmu-volunteer@jmj.tmu.ac.jp

Twitter:@tmu volunteer #松木目向緑地

登場人物

さくらば ゆか

咲良葉 縁楓: 理系の2年生。 通学途中に緑地をよく見かけることからこのプログラムに興味を 抱いている。好きな植物は椿。

ふかみどり たけし

深緑 竹志:いよいよ大学卒業を迎える文系の4年生。このプログラムには入学時から、関

わってきた。映画『スパイダーマン ファーフロムホーム』を見てから、ヨーロッパ に卒業旅行でいきたくて仕方ない。

咲良葉:早いもので深緑先輩の大学卒業が近づいて きましたね。 率直に今現在の心境はいかがで

深 緑:正直、実感はないね...。 竹を切らなくなる日が 来るなんて...。

咲良葉:4年間も携わってきたわけですもんね...。何故、 ここまで長く活動を続けられたんですか?

深 緑:前向きなネガティブ、っていうのが、あったんだ と思う。環境や地域の問題って、1人の1回の活 動で劇的な変化をもたらすことは、なかなか、難 咲良葉:いいことですね!さて、このサル山水合戦に限 しいだろうし。どこか、自分に無力感を感じてい たからこそ、継続的に取り組んでみたい!って 想いになったかな!

咲良葉:なるほど、分かりました!では、これまでの活 動を振り返って、1番、思い入れのある活動は、 なんですか?

深 縁:1番か、選ぶのには…。なかなかに、きついね。 咲良葉:そこをなんとか。。。!

深 緑:そうだなぁ…。 夏休み中に行なった、『サル山水 合戦』かな!自分達の切った竹が子ども達に笑 顔をもたらせたのは純粋に嬉しかったし。

咲良葉:あれですか!あの夏の暑い日にはぴったりな 活動でしたよね!

深緑:例の、『緑から縁を』を体現してるなぁって、し みじみ思った。



↑竹の水鉄砲で水合戦をします



↑事後学習では1年間の活動を振り返り、班ごとに発表します

咲良葉:この間のやつですね(緑地新聞冊子14Pを参 照)。里山保全活動、即ち縁という部分から 地域の繋がり、即ち縁へ結び付いていくという。

深 緑:そうそう!覚えてもらって嬉しい。端的にプログ ラムを表す言葉に感じ個人的に気に入ってる!

らずプログラムの活動では、地域の方々と多く 関わっていますが、交流の時になにか意識し たことはありましたか?

深 緑:当たり前なことかもしれないけど、子どもと話す 時には、しゃがんで相手と視線を合わせること を意識したかな!相手の身になった時に見上 げる形って結構、圧迫感あるだろうし。これま での人生で子どもと関わる機会は少なかった けど、当初は他のメンバーの動きを真似て自 分も交流してた。

咲良葉:いろんな学部、そして経験をもった学生がいる と活動中はお互いにいろんな刺激や発見があ りそうですね!

深 緑:そうだね! 竹林の生態系については生命科学 の学生と話をした記憶があるな。他学部の学生 の専門知識や活動への動機を聞くのは結構、 刺激になったかな。

咲良葉:分かりました。最後に、なにか読者の方へメッ セージなどあれば是非お願いします!

深緑活動中に、地域の様々な社会課題に触れるこ とで、進路的に、視野の広まりがあったと強く 感じています。緑地が好き、学部の関係、等、 きっかけは何でもいいと思います。少しでも多く の人が緑地に関わってもらえたら、嬉しいです。

咲良葉:分かりました!本日はありがとうございました!